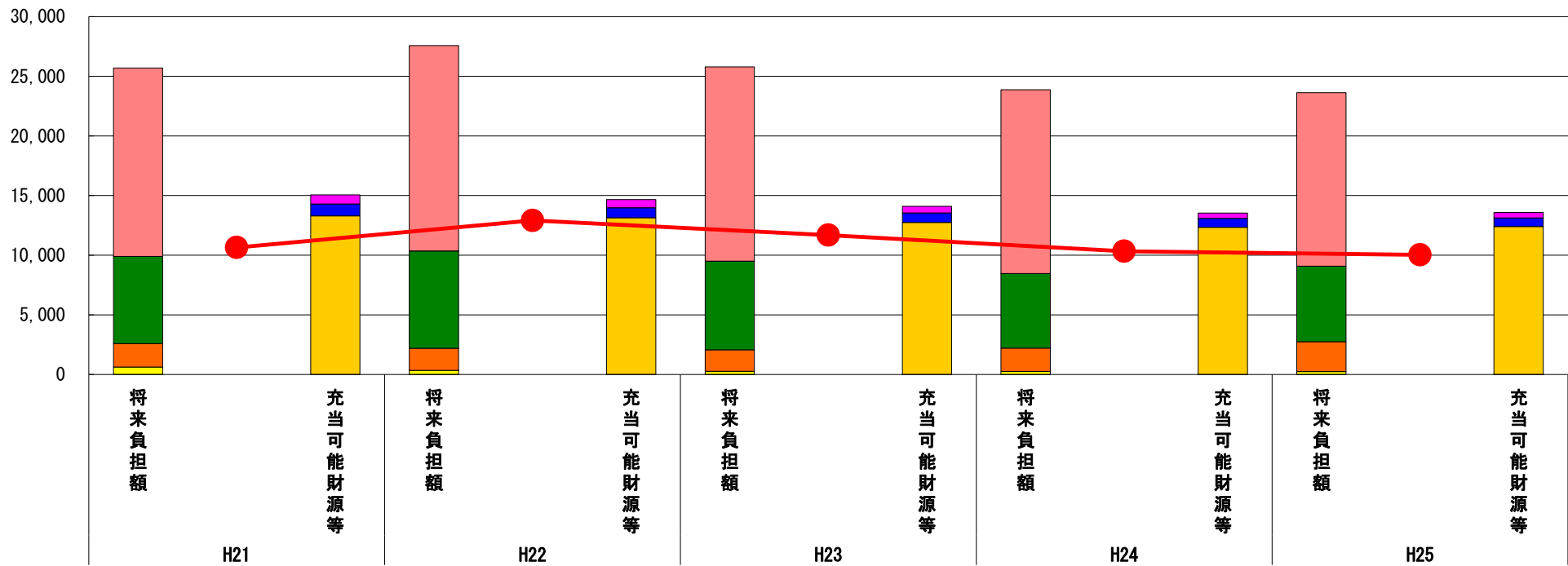


# (8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成25年度

北海道白老町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H21	H22	H23	H24	H25
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		15,799	17,223	16,282	15,400	14,539
	債務負担行為に基づく支出予定額		7	5	4	2	-
	公営企業債等繰入見込額		7,303	8,153	7,434	6,252	6,338
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		1,962	1,847	1,806	1,957	2,499
	設立法人等の負債額等負担見込額		627	352	263	255	246
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		755	679	560	443	471
	充当可能特定歳入		1,001	840	797	748	717
	基準財政需要額算入見込額		13,297	13,146	12,745	12,340	12,405
(A) - (B)	将来負担比率の分子		10,646	12,916	11,686	10,335	10,030

## 分析欄

一般会計等に係る地方債の現在残高は、平成22年度に第三セクター等改革推進債を発行したことにより増加しているが、過去の大型事業に係る既発債の償還が終了する一方で、適切な地方債の発行に努めたことにより、減少している。  
 公営企業債等の繰入見込額は、下水道事業において償還のピークが続くことにより、大幅な改善は見込めない状況にある。  
 充当可能財源等では、充当可能基金において財政調整基金の取り崩しが近年著しく、減少傾向を続けている。基金の計画的かつ効果的活用を努めていく。  
 将来負担比率の分子は、起債の抑制により減少傾向にあるが、依然として高い数値となっているため、今後とも地方債の発行抑制と計画的な償還によって、数値の改善に努めていく。

※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。